

かみくげ恐竜の里新聞

令和4年1月20日

発行：上久下恐竜の里づくり部会

第137号

上久下地域自治協議会
0795 78 0001

新年のご挨拶

上久下地域自治協議会 会長 野垣克己



上久下地域の皆さん、新年あけましておめでとございます。元旦雪化粧の年明け、ご家族お揃いで新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。日頃より自治協議会の諸活動に対してご支援ご協力を頂いていることに感謝申し上げます。

昨年も、猛威を振るい続けるコロナウイルス感染症の拡大により、2年に渡り予定の行事が中止若しくは規模縮小を余儀なくされる事となりました。しかし、同種では世界最古のドクトカゲ化石「モロハサウルス・カミタキエンス」の発見「あすまや」での櫓皮算体験ワークショップ(3年計画初年度)の開催、珍しい青い一発花火(医療従事者への感謝を込め)の打ち上げ。そして、高齢化の進む当地域での「上久下老人クラブ連絡会」の結成と、皆さんの尽力によりコロナ禍に於ける三密を避けての諸活動の実施となりました。今年こそは、コロナウイルス感染症の終息を願い、事業活動の再構築「チームかみくげ」で「一丸となり自然豊かな環境・伝統文化を継承し、更なる飛躍の「寅年」として考えてまいります。

自治協議会の変わらぬご協力をお願い申

新しい年を迎えて

上久下自治会 会長 藤原敏宏



新年あけましておめでとございます。皆様には、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃は、自治会活動にご理解ご協力を頂き有難うございます。

昨年は、一昨年に続きコロナウイルス感染症に翻弄され、各自治会の諸行事をはじめ自治協議会の恒例の行事も中止あるいは規模を縮小するなど自粛を余儀なくされました。それにより交流の場が減り地域の希薄化が懸念されます。しかしながら、当面の間はコロナとの共存が余儀なくされると思われまます。よって、各自治会の情報を共有し、地域活性化に向けてより一層の「つながり」を大切に、過去の慣習にとらわれない活動を皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

今年の干支は「壬寅(みずのえとら)」です。「壬寅」は、厳しい冬を超え、芽吹き始め、新しい成長の礎となる年と言われています。皆様にとり、より良い年となりますよう心よりお祈り申

壬寅(みずのえとら)に

上久下小学校 校長 八尾 滋樹



新年あけましておめでとうございます。

ご家族お揃いで新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。地域の皆様には日頃から子どもたちのために、力強く、そして温かく支えていただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

令和三年度から始まった複式学級も定着し、子どもたちが安心して学べる環境も整ってきました。この先数年間複式学級は続きますが、上々下らしい教育をすすめてまいります。

「大きい」とはいい事だというイメージが流布したのは、高度経済成長の価値観を反映した昭和四十二年のこと。しかしその後、オイルショック、バブルからバブル崩壊を経て現在へとつながっています。

今は令和の世。価値観は驚くほど多様化していますが、今こそ「小さい事はいいことだ」と言いたい。規模が小さいということは弱点ではなく「武器」だと考えます。「少ないからこそできる」「小さいからこそ叶う」という上久下の良さを今までの以上に声高に知らしめる時が来たのではないかと思います。

壬寅の年は正に「成長」「始まり」の年。ここから、今から、私から、あなたから、上久下の時代を創っていきますよ。

一発花火と竹灯籠の競演

かみくげ宿(土田正博 宿長)が12月19日に一発花火を打ち上げました。5回目になる今回は医療従事者の感謝の意味も込めて、青一色の花火が夜空を飾りました。グラウンドでは「500本の竹灯籠」フェニックスを描いて、ドローンで上空から撮影した映像は校舎に取付けた大型スクリーンに映し出されました。夕方6時になる頃から人が集まり始め、約300人の観衆が竹灯籠と青い花火を楽しみました。地元だけでなく、遠くは和歌山から撮影に来た人もあつたようです。土田宿長は「沢山の人たちに見てもらって、メンバーが苦労した甲斐があつた。竹灯籠の図柄もスクリーンに映したお陰で、分かり易かつたと思う」と感想を話していました。



夜空に浮かび上がった青い一発花火



竹灯籠の図柄はフェニックス

地元主催の化石試掘調査



NHK取材陣が注目する中で試掘調査

丹波電フェスタでは池田先生の講演会

上久下地域自治協議会が主催し、人と自然の博物館研究員と地元発掘ボランティアの協力で、11月16日から4日間の化石試掘調査を実施しました。昨年に続き卵密集地の川側を延べ35人で詳細に調査した結果、卵殻の密集箇所や恐竜の歯骨片など判定待ちの貴重な化石を採取することができました。参加者は一様に「この場所は宝の山！何が分かるか見当もつかない」と、驚きの表情を浮かべていました。今回の試掘にはNHKが3日間の密着撮影をしていました。近々特集で放送される予定です。この場所の北側で、2019年に県が本格的な発掘調査をした時に見つかった下顎の化石が、研究の結果ドクトクガの一種で「モンスターサウリア類」の新属新種であることが判明しました。学名は「モロハサウルスカミタキエンス」と命名され、同類では世界最古ということになります。『ヒメウーリサス』に続いて、地域のPRに貢献



檜皮葺きワークショップ第一弾開催

してくれるものと期待しています。11月28日に行われた丹波電フェスタでは、池田先生の講演会が開催され今回のトカゲを含めた内容が発表されました。また、12月には住民センターで地元説明会があり、池田先生は詳しい解説の最後で「わずかに1位の化石が、研究界に大きなインパクトを与えることもある」と強調していました。

伝統建築工匠の技がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを記念して、自治協議会が主催し地元技術者有志グループが協力する「檜皮葺きワークショップ」を、11月27日と12月5日に丹波竜の里公園を会場にして開催しました。両日とも時雨模様の中候でしたが、合計27人が檜皮葺きの実体験を楽しみました。参加した人は「屋根の高さまで登って竹釘を打つという貴重な体験をさせてもらった。丹波竜の顔が目の前にあつて、絶好の撮影ポイントになった」と喜んでいました。寒い中、準備や受付で協力してもらったPTA役員の皆様にも感謝致します。第2弾は3月5日(土)と6日(日)の2回開催予定です。



檜皮に名前やメッセージを書き込んで



丹波竜の目の前で檜皮葺き体験

ボランティア活動の紹介

ボランティアグループ「石田美子会長は、11月11日に独居高齢者を対象にした友愛弁当宅配を実施しました。例年ならメンバーが集まりお弁当作りをしますが、コロナ感染防止を優先して業者に注文。見守り活動を兼ねて声掛けをしました。また、12月初めには地域づくりセンターの窓拭きを実施してもらいました。お陰様で気持ちよく新年を迎えることができました。



窓拭きでお世話になりました。

お知らせ

◎下滝駐在所の電話は、令和4年1月1日で廃止となりました。

用件のある方は丹波警察署(72-0110)へ緊急の場合は110番通報をお願い致します。

◎川代さくらまつりは、新型コロナウイルスの感染収束が予測できないため、残念ながら今年も中止すること決定しました。

2月の予定

◆2月5日(土) 地域づくりセンター清掃 (青田篠場) 午前9時から

◆2月11日(金) 恐竜の里づくり部会 午後7時30分から

◆2月17日(木) 自治会長会 午後7時30分から

◆2月26日(土) 地域づくりセンター清掃 (阿草) 午前9時から

◆2月28日(火) 22日火災警報時計台のカフェ 午前10時から

3月の予定

◆3月5日(土) 6日(日) 東屋檜皮葺きワークショップ、丹波竜の里公園 午前10時から

◆3月11日(金) 恐竜の里づくり部会 午後7時30分から

◆3月17日(木) 自治会長会(新旧合同) 午後7時30分から

◆3月19日(土) 地域づくりセンター清掃 (上滝) 午前9時から

◆3月22日(火) 22日火災警報時計台のカフェ 午前10時から